2018 年度人文学部 FD 活動報告

（キリスト教学科，人類文化学科，心理人間学科，日本文化学科）

学部全体としては，カリキュラムに関する検討組織として学部内に常設された，各学科の時間割担当教員，学部教務委員，学部 FD 委員からなる人文学部カリキュラム委員会を計 5 回開催し，①Q2 集中科目等，クォーター制下における授業の運営について，②科目前提条件明記にかかる点を中心とした履修要項の改正について，③人文学部共通科目について，④人文学部カリキュラムアンケート（卒業生対象）について，⑤学部 FD について，などの諸点について検討した。このうち，人文学部カリキュラムアンケートについては，各学科で実施しているカリキュラムアンケートと合わせて，各学科において 1〜2 月に実施した。また，2019 年度からの実施を検討していた「人文学異文化研修短期留学プログラム B」は，開講が決定し，2019 年度からは，同 A とともに，2 科目の短期留学プログラムを人文学部共通科目として提供することとなった。

学部企画および共催の FD 企画としては，第一に，人類文化学科主催の FD 企画「大学から地続きの場所としての企業―人文系人材の産業界におけるあり方―」を，2018 年 9 月 28 日（金）に，人文学部との共催として実施した。電通プロモーション・デザイン局に勤務しながら大阪大学大学院文学研究科博士後期課程で研究活動も同時に実践している朱喜哲氏を講師としてお招きし，ご自身の経験や現在の実務などを事例として，人文科学の学びや思考法が企業において活用されうる状況や視点について講じていただいた。本企画には，人類文化学科の教員だけでなく，他学科・他学部および学生も含めて，18 名（うち人文学部教員12名）の参加があった。大学・大学院での勉学や研究実践を，社会においてどのように活かすことができるかという事柄についてのいつかのポイントを提示してくれる貴重な企画であった。第二に，「学部共通科目と人文学部の教育」と題した人文学部主催の FD 企画を，2019 年 3 月 11 日に実施した。2013 年度入学生以降を対象として実施した人文学部共通科目について，その後の課題および成果を再検討し，今後の学部カリキュラムのさらなる充実への方策検討を目的とし，「趣旨説明―学部共通科目の現状と課題」（濱田琢司：人文学部 FD 委員），「カリキュラム調査にみる学部共通科目」（坂井博美：人文学部教務委員），「授業実践を通して考える学部共通科目」（佐藤啓介：キリスト教学科）の 3 報告がなされた。35 名（うち人文学部教員33名）の参加があり，3 つの報告とともに，多くの意見・コメントが出され，人文学部共通科目の目的や成り立ち，2013 年度の改正時の状況などの諸点について，活発な議論が行われた。この検討を通して，今後に向けて，より具体的な課題を検討し，人文学部共通科目の適切な運用と充実を目指したい。

次に，各学科においての主な取り組みを紹介する。

キリスト教学科ではとくに以下の取組みをおこなった。(1) 日常の学科会議とは別に 2 月 26 日に学科 FD 懇談会を開催した。第一に、今年度二つの授業で授業参観をした教員から話題提供をしてもらい、人文系の授業の組み立て方と進め方について参加者で意見交換した。参加者は 13 名であっ

た。第二に、上述の卒業生対象カリキュラム調査（学科分）の集計結果を検討した。今回新たに加えた設問「キリスト教学科の授業を通して身についたと思うもの」の項目を重点的に分析し、これから必要と思われる改善点とアンケート項目の工夫についても話し合った。(2)次年度の時間割編成にあたって、クォーター制のもとでの演習の開講時期と内容に関する議論を前年度から継続しておこない、とくに2年次生向けの「基礎演習 II」は教員の専門分野と学生の動向などの面から慎重に考慮して担当者を決定することとした。(3)数回にわたる学科会議で、教員の退職などにより今後必要となる分野と授業について具体的に検討した。教皇庁認可神学部との連携を再確認するとともに、中長期的な学科教員の将来計画について議論した。(4)正規授業を補完する教育効果を求めて、新入生オリエンテーション合宿、新入生歓迎会、オルガン・メディテーション、多治見修道院での学外授業、ゼミ説明会、研究プロジェクト発表会、卒業生送別会などの学科行事を例年通り開催した。

人類文化学科では，9 月に上記学科主催の FD 企画（人文学部共催）として電通プロモーション社員であると同時に大阪大学大学院でご自身の研究も継続されている朱喜哲氏をお招きして，実学重視への転換，産学連携の推進，実務教員の配置奨励など，大学を取り巻く環境や要請の大きな変化をふまえたうえでの人文系教育のあるべき姿などについてお話いただき，今後の人文系教育について，学科構成員で意見交換し，お互いの考えを深めた。

心理人間学科では，2018 年度は公認心理師受験資格に対応した新カリキュラムの具体化が FD 活動の中心であった。このカリキュラムの開始に伴い，事前に予測できなかった課題への対応も多かった。関連して 2021 年度から開講予定の学外実習先の確保も，学内外の関係者の協力を仰ぎなら進めた。加えて，例年通り，2019 年 3 月 10 日には「心理人間学科自己点検・評価委員会」を開催（参加者 12 名），3 月 27 日～29 日には「心理人間教育研究会」を開催（参加者 11 名）し，教育および研究について意見を交換した。また，新入生，卒業生に加え，オープンキャンパス参加者にも対象を広げた学科教育にかかる調査活動を行った（なお，この調査で，新入生やオープンキャンパス参加者のうち公認心理師を目指そうとする者の割合は前年度の同調査における割合とほぼ同じであることが判明した）。それぞれの結果は学科内で共有し，広報活動や学生指導に活用している。2018 年度から教員 2 名を新たに迎えたが，それぞれにメンター役を配置して適応を支援した。上記以外の主な FD 活動としては，例年通りのことであるが，学科会議等のみならず，多様な機会をとらえて学生の情報，授業の情報を共有するよう努めた。また学生がより自覚的に授業の選択，関連づけができるよう，カリキュラム構造の視覚化を検討し，学科 web に掲載して学生に利用を呼びかけている。

日本文化学科では，学生の教育・指導について，例年通り 4 月に行った新入生学外オリエンテーションをはじめ，全ての学生が履修する基礎演習および演習の授業を通じて，学生・教員間のコミュニケーションを図った。特別な配慮や指導を要する学生に対しては，学科会議などを通じて教員全体で情報を共有するように努め，指導教員を中心に学科全体で指導することにより対応した。年度末（3月9日）には，学科の重要な基礎教育科目である二年次の基礎演習に関して，学科の教員によるシンポジウムを行い，4名の教員による発表と学科の全教員11名による討論がなされた。現在ど

のような実践がなされており，どのような効果が上がっており，どのような問題点が生じているかについて報告がなされた後，今後の基礎演習の進め方について活発な議論が行われた。その結果，多様な研究対象に対してさまざまな方法で学生にアプローチさせていくことの意義が再確認され，今後その方向をさらに発展させていくこととなった。また，各教員のそれぞれの授業での授業運営のあり方について情報を交換できたことも有益であった。